

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371100431		
法人名	医療法人再生会 くまもと心療病院		
事業所名	認知症対応型共同生活事業 めくもり		
所在地	熊本県宇土市松山町1907		
自己評価作成日	令和元年10月11日	評価結果市町村受理日	令和2年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和1年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歳を重ねられ、介護を必要とされる方が増え、簡単に外出する事も難しいが、職員が協力しながら本人様の思いを大切に外出の機会を作り、温泉や外食など地域へ出かけるように心掛けている。また、入居者同士の支え合いが多く見られ、ひざ掛けを掛けてあげられる場面や食器を下げて下さる場面等があり、それを後ろからさりげなく見守る職員の姿に、支え支え合う関係作りを感じる事が出来る。一人一人の生活リズムに合わせて、柔軟な対応や出来ることできないことを見極め、プライドを傷つけないように、手を出し過ぎずさりげなく介助をする職員を自慢したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づく認知症介護の実践が図られており、入居者・家族・職員がお互いに何でも言い合える信頼と協力関係が築かれている。管理者及び職員は、日常的に地域密着型ケアの充実を目指して取り組んでおり、運営推進会議・地域・法人本部と関連事業所・同業者との協力や連携体制へと繋げている。また、申し送りや記録・専門的な研修と復講・母体法人の研修会などでの学びを共有して利用者を中心とした支援の継続を図り、更なるサービスの向上を目指している。全職員で意見を書き込む利用者毎の「気づきノート」の活用は、日々の工夫や介護計画の見直し、入居者や家族の要望に応える支援の体制づくりに活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日ある申し送りや運営推進会議、ミーティングにて理念の唱和を行っており、理念にもある支え合う関係作りを日常の中で感じることが出来る。	理念の「地域や家族と支え合いながら、本人の思いや希望を受け止め、本人の持てる力を活かした生活の実践を行います。」に沿って4つの基本方針がある。職員・入居者・家族・地域住民の良好な関係構築のもと、介護計画・気付きノート・介護記録などが繋がりを持つ仕組みを作り、本人主体のケアとなっているかを振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	松山地区の文化祭へ参加、準備や作品を展示させて頂いた。また、グラウンドで遊んでいる小学生と花見をしたり、毎月1回、保育園との交流会や健康体操への参加を行っている。	母体法人の病院、隣接する介護保険事業所、道を隔てた保育所などとの交流が定期的、随時に行われている。運営推進会議で地区行事などの情報を得て出かけたり、病院文化祭では入居者と一緒に作った山菜おこわを販売して喜び合う機会もある。保育園の運動会には予行練習時に見学に出かけ、入居者に無理のない安全への配慮が感じられた。また、共用空間の壁には沢山のひとと交流する笑顔の写真が所狭しと掲示されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の交流授業、中学校の職場体験の中で認知症についての話をを行った。またラン伴に参加し他事業所の方と地域の方への認知症を啓発活動も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や、現状の報告を行い、アドバイスを頂いているが会議を活かしきれしていない。看取りの報告では、区長さんなどから労って頂き、「自身の最期を考える参考になった」と話して頂いた。	会議は小規模多機能ホームと合同で開催し、区長・老人会長・民生委員・家族代表・市担当課・包括支援センターなどの出席を得ている。ホーム活動や現状の報告後、市全体が抱える問題とそれに伴う取り組みや熱中症対策・感染対策・看取り・苦情対応など多岐に亘って話し合われている。現在、警察の定期的な出席があっっていて、郵便局や消防署も予定している。民生委員グループのホーム見学も行われている。	議事録からは、研修や業務改善の工夫など、職員の動向の報告が少ないように感じられた。職員の熱意を理解してもらった上で意見交換を行えば、更なるサービスの向上に活かされるのではないかと考えられる。今後の取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議ではもちろん、ご家族からの相談事を、市役所に相談、確認させて頂いたり実直に対応して頂いている。また、研修等でご会合した時等、施設の様子や現状などを話したりしている。	運営推進会議に市担当課から複数の出席があり、協力関係が伺われる。市への相談などは質問票を提出して調べた上で応えてくれる仕組みがあり、信頼関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒の危険性がある方が立ち上がっても状況を見守り、手が届く場所でさりげなく見守り好きな時に好きな場所に行けるよう心掛けている。また、介助が重なり待っていた場合、理由を説明し了承を得るように声かけさせて頂いている。	「身体拘束廃止に関する指針」の共有のもと、入居者の能力や状況に応じて安全に生活しやすいよう、共用空間や居室の家具・テーブル・ベッド・ソファ等の配置をしている。職員はグループホーム連絡会、法人研修や外部研修などでの学びや気づきノートなどでの工夫を出し合い、一人ひとりに適した対応について共通認識を持ち、身体や言動による拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修へ参加し高齢者虐待防止について学び、虐待防止に努めている。また、職員がストレスを溜めないように休み希望を多く聞きリフレッシュできるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用する事案はない。勉強会の開催や研修への参加に努めているが、全員が理解しているとはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約内容が分かりやすいように説明するように努め、重度化や看取りについての対応方針などは、ご家族の考えや思いなどをお聞きしながら説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や、手紙、電話を掛けた際は、近況報告や、その日の出来事などお話ししコミュニケーションを取るよう努めている。また、ご家族、入居者の方からケアについて相談があり、そのことをミーティングで話し合いケアに活かしている。	年1回の家族会は、近場のレストランでランチをして親睦と意見交換をするなど、話し易い関係づくりを図っている。食事は入居者の嚥下状態などに配慮したメニューで、入居者・家族・職員から喜ばれている。家族や入居者の意見は職員で話し合い、運営推進会議でも開示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士の何気ない日常会話の中で、入居者の方の対応についてや提案が出てくる時があるので、気づきノートを作成した。また、一定期間試し検討しながらケアに繋がるようにしている。	「入居者一人ひとりについての気づきノート」を作成しており、全職員が気づきや意見を書き込み、ケアに活かしている。看取りを視野に入れた居室ドアの一部改修、車いすなど皮膚を傷つけないスポンジ装着などの職員提案を早期に取り入れ、実現する取り組みが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩中はゆっくりと休めるように、事務所のドアを閉めておいたり、外出できるようにしている。母体では資格取得に向けた、費用の補助等の支援がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は、県主催の基礎研修、実践者研修、リーダー研修を受講した。講義での課題が職員全員のケアを振り返るいい機会となった。また可能な限り希望する研修に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区ブロック会議に参加し情報交換や勉強会の開催で交流する機会を作っている。管理者は宇城地区のケアマネ協会の役員、ラン伴の実行委員をし同業者との交流に努め、得た情報を職員に伝えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から相談等があった時は、一緒に見学に来られるように声を掛けさせていただいている。本人様の不安な思い等を受け止め、寄り添い安心してもらえる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の説明だけではなく、本人様、ご家族の思いや苦労などお聞きし、労いの言葉を掛けさせて頂いている。それぞれの思いを汲み取り、次の段階に繋がるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設へ空き状況の確認や紹介も行っている。入居申し込みをされている方が相談に来られ、話をしすっきりした表情で帰られた事があった。その際も、他の施設の利用の提案やアドバイスをさせて頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	歳を重ねられ、介護する場面も増えたが、一人一人の出来ることに目を向け、それを活かすケアに努めている。時に甘えてみたり、一緒にTVを見たりと支えあいながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居される前の関係を大切にし、受診をお願いしたりすることでご家族の安心にもつながっていると思う。関係が途絶えないように情報交換に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	行きつけの美容室や床屋を利用している。床屋の奥様も高齢であるが、トイレに連れて行っていただいたりして下さるので安全に気をつけさりげなく見守りを行い関係の継続に努めている。また自宅周辺を散歩したり、墓参りにお連れしたりしている	行きつけの床屋さんや金銭を出し入れする郵便局などで馴染みの関係が続いている。家族の協力のもと、正月や盆、墓参りや自宅周辺の散歩などが行われていて、半日もするとホームに帰りたいたいと元気で帰所する人もあり、入居者の希望に沿った支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のトラブルもあるが、会話の橋渡しを行い関係が上手くいくよう支援している。入居者同士の支え合いを見守り、支え合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族へ行事の声かけをし参加して頂いている。また近くを通った際は寄っていただき思い出話に花が咲いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人様の希望に添えるように、したい事や出かけた場所をお聞きし、ご家族にも協力を得ながら可能な限り希望に添えるようにしている。特に、看取りについては本人様の意向を確認し記録、ご家族にお伝えしている。	日常会話や思い出話の中で「どうしたいか」「どこに行きたいか」など積極的に聞き取っている。地域広報やイベントの情報を集め、無料や安価な割引券や抽選券等を利用して映画やサーカスを楽しんだり予定している。職員は「元気でいこうね」と声かけして、生きがいを持って生活する支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族会や面会時に、どのような方だったかお聞きして、知り得た情報をケアに活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる事出来ない事を見極め、出来ることが継続できるように支援している。また、一人一人の生活リズムに合わせてゆっくりと過ごして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、それぞれの担当者がモニタリングを行っている。ミーティング時だけでなく気づきノートも活用し職員全員で介護計画が作れるように努めている。	担当制を取り入れ定期的なモニタリング、短期目標の達成度、長期目標のモニタリングと評価のサイクルを継続して介護経過計画を作成している。カードックスで介護計画、経過記録、体調管理票等の確認をして、現状に即した実践を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排泄の記録、その時の状況により水分量を記録。本人様やご家族の言葉を大切に記録している。重要な記録には目がつくように印をつけている。また申し送りノートを活用し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診や、ご家族が無理な時の受診のサポート、ご家族の状況に合わせて送迎など臨機応変に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には定期的に警察の方をお呼びして、認知症を理解して頂くようにしている。また、郵便局や温泉などの地域資源の利用に努めており、郵便局の方とは馴染みの関係が出来つつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族の希望に沿いかかりつけ医に継続して診て頂けるように支援している。受診の際は、事前に連絡したり、情報を提供している。	入居者と家族の希望を大切にしながら、入居時に訪問診療、日常的な健康管理について説明をしている。かかりつけ医の都合に合わせて、必要時は訪問診療医による診療を受けることができるなど、協力体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護師が不在の為、すみれ訪問看護ステーションと契約し、健康観察や相談等行ない、安心して生活して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は管理者または主任が同行し情報提供を行っている。定期的に見舞いに行き、病院看護師と情報の交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	これまでの看取りの経験を踏まえ、指針の見直し、意向の再確認を行い、重度化や看取り時に安心して最期を迎えられるように、その都度意思確認を行いながら取り組んでいる。	管理者の着任後に本年度は2名の看取りを経験している。現在看護師不在の為「安らかな看取りのための看取り指針」の変更をしている。職員の前向きな姿勢を支援しながら、医師・本人・家族・職員・訪問看護ステーションとの連携強化を図って対応することを運営推進会議でも報告している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの見直し、急変時の対応・蘇生など定期的に勉強会を行い、職員全員が慌てずに対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災、地震を想定して訓練を行っている。様々な災害を想定しマニュアルの見直し、訓練を行う必要がある。	本年度は母体病院と合同でホームを火元にした夜間想定訓練を実施しており、その際の気づきとして、ライト付きヘルメットの整備を行っている。11月には震度7の大規模訓練の予定があり、毎月法人本部に防災日誌と救急日誌を提出する災害対策の体制づくりもある。運営推進会議では様々な災害への具体的な対応策が検討されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いを大切にさりげないケアに努めているが、その時々で出来ない時もあり、職員の意識づけが必要である。	日々変動する入居者の状況に合わせて「ゆとりを大切に」と声を掛け合い、業務優先にならない支援に努めている。家族の同意のもと、本人を昔の愛称で呼んだり、職員が息子や母ちゃんになりきって会話をすることで本音に気付く事があり、ケアの見直しに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「何がしたいですか？どこに行きますか？」などいつも通りと思わずに希望を聞いてからケアにあたるように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、一人一人の生活リズムに合わせて柔軟に対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院での髪染め、床屋での髭剃り、化粧品の購入等の支援を行っている。着替えを手伝う時は、本人様の意向に沿った洋服を選ぶように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの相談や食材の皮むき等を一緒に行かないながら一緒に楽しく食事が出来るように心掛けている。	日常的な会話の中で、「何を食べたいか」等を尋ねている。食材が不足している時には入居者も一緒に買い物に行き、寄り道をして希望を叶えたり、時には出前の寿司を楽しむ事もある。職員は一緒に同じ食事を摂っていて、一人ひとりのペースに合わせて対応している様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方には、好みの食べ物を補食として食べて頂いたり、おにぎりやお茶漬けなど工夫し提供している。また、こまめに水分を提供し飲んで頂くように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行っている。拒否が強い方は職員も横で歯磨きをするなど工夫しながら対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツで入居された方には、排泄パターンを把握し可能な限り、外すように努めている。トイレの回数が多い方も気兼ねなくトイレへ行けるように声かけしトイレでの排泄支援を行っている。	必要時は排泄パターンを確認して申し送りや記録をして、トイレでの介助を基本としている。居室にトイレと洗面台が設置されているが、夜間のみポータブルトイレ使用を希望される方には、トイレをソファで囲んで手すり代わりにして自立支援をするなどの工夫が見られた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録、牛乳やヨーグルトなど通じに良い食材を提供している。また、体操など行い、自然排便に心掛けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望に沿って入浴していただいている。基本的に午後から入浴だが、入浴が難しい方は午前中に声かけするなど、一人一人の状況に合わせて臨機応変に対応している。	職員は、「毎日入浴準備をする」事を共有して、入居者毎に異なる希望に応える支援をしている。入浴に気が進まない入居者には、職員を変更したりタイミングをみて再度声をかけるなどの対応をしている。看取りを見ずして、新しいシャワーチェアが用意されていた。	設立時からの浴槽は、介護度が高くなつた現在の入居者の状況に対応できにくいのではないかと懸念される。今後の取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動、昼寝を行って頂いている。寝つけない方にはホットミルクを提供したり、安心して休んで頂けるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のケースを作成し、薬を管理している。一日分の薬をセットし、入れる場所が違っていたこともあり、マニュアルを再確認し誤薬が起こらないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の相談や管理、洗濯物たたみなど一人一人に合わせて依頼している。また、温泉やドライブなど積極的に外に出て気分転換が出来るように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での温泉や、兄弟宅への訪問など、可能な限り希望に添えるように努めている。車イスの方も散歩やドライブで元気な方と一緒に出掛けられるように支援している。	日勤に余裕がある時や天気の良い日は、「出かけようか」と声かけし、庭のジャガイモ収穫・ばらや桜見学・保育園児との交流・健康体操・習字教室等に出かけている。運営推進会議でもサーカス・アジサイ見学などのスナップ写真を資料として掲載し、委員にも活動報告がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でおこづかいとして預かっているが数名の方が財布を持っておられ、買い物に出かけた際は手持ちの財布から支払いをされる。残金が少なくなった時は希望により郵便局へお連れしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所にある電話を使用できる。状況により、携帯電話を利用して頂きゆつくりと要件を伝えられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには仏壇があり、畳の上でゆっくりと過ごす事もできる。西日を配慮しすだれを設置したりと過ごしやすい空間作りに努めている。	ダイニングとテレビを見るコーナーや仏壇のある畳の間はワンフロアにあり、天窗やガラス窓越しの採光で明るく開放的である。浴室や居室に繋がる広い廊下は気配りがし易く自由に安全に行動できる設計となっている。様々なソファ類を動線を妨げないように置いて、一人ひとりに適した寛ぐ場所作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	どこでもくつろげれる様にソファを配置している。一人で外を眺めたり、一人で居ながら、人の気配を感じられる空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきていただき落ち着いて過ごせる居室になるように努めている。「洗濯物を自分で干したい」と希望され、気兼ねなく干せるように安全に配慮し居室に干せるようにロープを設置した。	ベッドの位置が一人ひとりに違いがあり、それに応じてテレビ・仏壇・タンス・テーブル・衣装掛けなどの家具類を配置しており、個性ある居室となっている。壁面には入居時からの誕生日毎の写真やメッセージを書いた手作りの色紙が飾っており、入居者や家族から喜んでもらうと共に、職員との思い出話のきっかけづくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の床は転倒しても衝撃を減らせるように柔らかい素材でできている。身体状況に合わせて手すりの設置やプライバシーに配慮しながら居室トイレのドアを外し、車イスでも入りやすいように工夫をしている。		